

# 世界の海で活躍する ばら積み貨物船

## Fシリーズ最新鋭！ ばら積み貨物船「Future-56」

船舶の世界でも、省エネルギー化と環境負荷の低減は大きな流れとなっている。これらのニーズにこたえ、強化された排ガス規制や海洋環境保護規定、港湾規制にも対応した最新鋭のばら積み貨物船 Future-56 を紹介する。



ばら積み貨物船 Future-56

株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド (IHIMU) は、2010年5月21日、TA TONG MARINE 向けのハンディマックス型ばら積み貨物船「TTM DRAGON」を引き渡した。本船はIHIMUの標準型ばら積み貨物船 Future-56 の第21番船である。ハンディマックス型とは、世界の大半の港に入港でき、本船に装備したデッキクレーンで貨物を積み降ろしする載貨重量（その船が積むことのできる貨物や燃料などの重量）5万～6万トンクラスの貨物船を指し、ばら積み貨物船とは、穀物、石炭、鉱石などの貨物を梱包せずにはら積みで

輸送する貨物船のことをいう。

Fシリーズ船には長い歴史がある。IHIMUは、1967年に第1船が竣工した Freedom にはじまり、Fortune, Friendship, Freedom-MK2 と、時代と要求の変化に応じた標準型一般貨物船を建造してきた。これに対し標準型ばら積み貨物船は、1977年第1船竣工の Future-32 を皮切りに Future-32A, Future-42, Future-48, Future-52, そして今回紹介する Future-56 と大型化しており、これらのハンディマックス型より大型の Future-87 もすでに活躍している。末尾の数値は載貨重量を1000トン単位

で示している。IHIMU はこれらの F シリーズ船を、最新鋭の Future-56 を含め約 400 隻建造してきた。

この Future-56 は、各船級協会の構造規則を統一した共通構造規則や、衝突・座礁による燃料油の流出を防止するための燃料油タンク防護規定などの新規則を順次適用してバージョンアップを図り、すでに 50 隻以上受注している。

Future-56 は、船主やオペレータの要望や前シリーズ船での経験を活かした標準船で、全長 190 m × 幅 32.26 m × 深さ 18.1 m、総トン数 31 600 トン、載貨重量 56 000 トンである。大きなハッチオープニングの貨物ホールドを 5 ホールド設け、4 基のデッキクレーンを装備している。貨物ホールドの合計容積は 72 000 m<sup>3</sup> で、比重の小さいばら積み貨物の運送も可能とし、長尺貨物の輸送にも適した貨物ホールド長を備えている。

主機関はディーゼルユナイテッド製電子制御型エンジン DU-Wärtsilä 6RT-flex50 × 1 基で、連続最大出力 8 890 kW × 116 回転/分、常用出力は連続最大出力の 80% と主機関に余裕をもたせ、航海速力は 14.5 ノットである。部分負荷時の燃費を改善するだけでなく、窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>) や黒煙など排ガス中の有害物質の低減も図った船用ディーゼルエンジンである。

省エネルギー装置は IHIMU が開発した Low Viscous resistance Fin ( L.V. Fin ) を装備しているが、



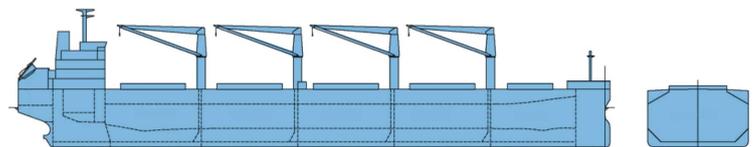
L.V.Fin



ブリッジより前方を望む



ブリッジ内部



Future-56 の概略図

さらなる燃費改善策として半円ダクトなどを装備することも可能である。

Future-56 は、IHIMU の標準仕様に加え、危険貨物の積載やホットコイルなどの重量物の積載への対応、デッキクレーンやバラストポンプなどの荷役能力の向上といったオプション仕様を取りそろえ、またバラスト水処理装置や主機関の排ガス規制強化、低硫黄燃料の使用などの海洋環境保護や種々の港湾規制にも対応している。そのため、船主はさまざまな組み合わせの中から自身の運航ニーズにあった船を建造できる。

IHIMU は、今後もさらに省エネルギー化や環境負荷低減などのニーズにこたえ、Future-56 のバージョンアップを図っていく。

問い合わせ先

株式会社 アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド  
船舶計画グループ

電話 ( 03 ) 3454 - 7125

URL : [www.ihimaru.co.jp/ihimaru/](http://www.ihimaru.co.jp/ihimaru/)